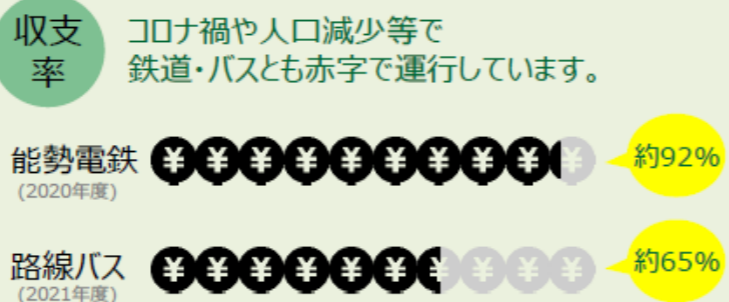


数値指標

・「豊能町地域公共交通会議」で継続的に検証・見直しに取り組みます。
 ・次の数値目標を定め、計画の推進と進捗管理を図ります。

モード	数値指標	単位	2019	2020	2021	2022	2028目標
能勢電鉄	利用者数(町内3駅乗降者数)	人/日	6,541	5,369	5,186	5,175	6,541
	能勢電鉄線の収支率	%	107	92			100
路線バス	利用者数	千人	2,276	1,800	1,810		2,276
	収支率	%	79	66	65		79
	豊能町負担額(豊能西線)	百万円	10	10	10	30	30
デマンドタクシー	利用者数	人/年				令和4(2022)年7月1日のデマンドタクシー再編、	
AIオンデマンド交通	収支率	%				令和4(2022)~5(2023)年度のAIオンデマンド交通(HANI+)実証実験結果等を踏まえて設定	
	豊能町負担額	百万円					

参考 地域公共交通の現状



参考 地域公共交通のススメ

<p>クルマはお金がかかります。</p> <p>800 円/日以上</p> <p>クルマを「乗らずに持っているだけ」でかかる費用</p> <p>保険、税金、車検だけでこの値段。ガソリン代、駐車場、購入費用を考えると電車やバスより意外と高い。</p>	<p>クルマは事故が怖い。</p> <p>64%</p> <p>一生で人身事故を起こす確率</p> <p>クルマに50年間乗ると事故とは無縁でいられません。また、100人に1人は死亡事故を起こしています。</p>	<p>地域公共交通で健康に。</p> <p>2.2 倍</p> <p>クルマを使う人に対し、公共交通を使う人が消費するカロリーの量</p> <p>クルマは「楽」な分、公共交通と比べて身体を動かしません。公共交通に乗るだけで健康増進になります。</p>	<p>地域公共交通で環境志向。</p> <p>2.6 倍</p> <p>クルマを使う人に対し、使わない人が1日に排出するCO2量</p> <p>クルマを使う人は使わない人と比べて多くのCO2を出しています。</p> <p>資料：日本モビリティ・マネジメント会議</p>
---	---	--	---



豊能町地域公共交通計画 概要版

策定 令和6年3月 計画期間 令和15年度まで 計画区域 豊能町全域

背景

能勢電鉄妙見線、阪急バス、京都タクシー、デマンドタクシー等の地域公共交通は、人口減少等により利用者が減少傾向にあります。こうしたことから、町では、2014年に「豊能町地域公共交通基本構想」を策定し、まちづくりと連携した地域公共交通の改善を図ってきました。一方で、今後の豊能町における地域公共交通では、北大阪急行延伸をはじめ、コロナ禍からの回復、担い手不足等、取り巻く環境の変化が想定されます。

目的

まちの将来像の実現を、交通サービスの面から支えるべく、地域・交通事業者・行政の連携・役割分担のもとで、まちづくりと協調しつつ、多様な輸送モードの組合せにより、自家用車以外でも移動できる環境の持続的な維持・確保・改善を目指し、「地域公共交通のマスタープラン」として、本計画を策定します。

計画の基本理念 とよの地域公共交通 リ・デザイン まちづくりを支える交通サービスの創造的再構築で未来輝くまちへ

豊能町の最上位計画で目指すまちの将来像「自然に抱かれた多様性・創造性で未来が輝くまち とよの」の実現を「快適で住みやすい環境の整備：まちづくりを支える交通サービスの提供」の施策分野から支えます。また、地域、交通事業者、行政の連携・役割分担のもとで「豊能らしい新しい地域公共交通」を創造的にリ・デザインしていくことで、「使いたい 地域公共交通」「移動したいまち とよの」、ひいては「住み続けたい」持続可能な地域づくりを目指します。

本町における地域公共交通の課題

- 広域/町内における地域公共交通の利便性向上
- DX/GXによるデジタル化や環境配慮型社会への推進
- 地域公共交通の持続可能な提供
- 効率的な行政運営
- 誰もが移動しやすい環境の維持確保
- 都市づくりや観光振興等と一体となった地域公共交通構築
- 地域づくりへの住民参画推進

基本方針

- A** 幹線・支線ネットワークでいつでもどこでも移動したくなる地域公共交通
- B** スマートで人と環境にやさしい地域公共交通
- C** まちの新たな価値を広める地域づくりと連携した地域公共交通
- D** チームとよの」で使い支える未来まで走る地域公共交通

将来ネットワーク

